

平成23年度 岡山県環境審議会政策部会 議事概要

(開催要領)

- 1 開催日時：平成23年12月26日(月) 10:00～11:45
- 2 場所：三光荘 3階「パブリゾン」
- 3 出席者：
  - 委員(五十音順、敬称略)  
大島光子、岡本輝代志、沖陽子、河原長美、高橋正徳、野上祐作、富士田亮子、吉田浩子  
／計8名(欠席1名)
  - 事務局(県)  
環境文化部次長、環境企画課長、地球温暖化対策室長、環境管理課長、循環型社会推進課長、  
自然環境課長、事務局職員／計9名

議 題	1 報告事項 新岡山県環境基本計画(エコビジョン2020)の進捗状況について 2 諮問事項 新岡山県環境基本計画(エコビジョン2020)の見直しについて
会議資料	別添ファイル
議事概要 事務局説明	<b>【議題1】</b> (環境企画課長より別添「資料1」に基づき説明)
-委員意見-	
意見① 循環型社会 推進課長	<進捗管理の方法について> ・P13やP22等で、「～実施した」という記述だけで、実施した結果が示されていないものがある。実施内容まで公表すべきではないか。 もう少し丁寧な公表を心掛ける。
意見② 環境企画課長	・進捗状況の報告は数値と達成状況で示して欲しい。数値で見ることで次の課題が見える。 重点プログラムの指標の数値については、岡山県環境白書P102を参照いただきたい。評価については、毎年5段階で評価をしており、平成22年度は平均3.10と平成21年度の平均3.01を上回っている。その中で、「基本目標1：地域から取り組む地球環境の保全」は2.70、「基本目標4：自然と共生した社会の形成」は2.88、「推進目標1：参加と協働による快適な環境の保全」は2.88と平均を下回っており、今後さらなる取組の推進が必要な部分であると考えている。

<p>意見③ 地球温暖化 対策室長</p>	<p>&lt;温室効果ガス算定・報告・公表制度について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・目標が不達成だった事業者に対する指導などは今後、考えていないのか。</li> </ul> <p>現状の制度では、考えていない。本制度は自主的な排出抑制を促す制度であり、事業者の立てる自主目標が高ければ達成は厳しく、低ければ簡単という面もあり、一該に指導ということにはならない。</p>
<p>意見④ 地球温暖化 対策室長</p>	<p>&lt;エネルギー不足について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・電気自動車の普及には電気がいると思う。東日本大震災の関係で全国で節電が行われているが、岡山県では電力不足の心配はないのか。</li> </ul> <p>当面、岡山県ではそうした心配はない。従来、岡山県をエリアとする中国電力の原子力発電の依存度が低く、中国地方は余剰電力がある。</p>
<p>意見⑤ 循環型社会 推進課長</p>	<p>&lt;もったいない運動の推進について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・この秋、レジ袋秋休み月間を設けたが、この月間の成果や集計は済んでいるのか。もったいない運動について、さまざまな取組を行っているの、もう少し強く推進状況を記述してはどうか。</li> </ul> <p>レジ袋秋休みキャンペーンを11月の1ヶ月間行った。毎月10日をノーレジ袋デーとして取組を行ってきたが、もう少し長いスパンで行うということで、1ヶ月実施した。レジ袋の辞退率を集計したところ、10月10日は平均辞退率は26.1%だったのに対し、キャンペーン中である11月10日は辞退率が28.7%と2.6%辞退率が増加した。また、スーパーに限定すれば、10月10日は24.2%であったのが、11月10日は28.7%となっており、4.5%の増加となった。</p> <p>一方で、着実な辞退率の増加は認められたものの目標は達成しておらず、年明けに開催予定のレジ袋削減検討会で、実績の検証と今後の取組の検討を行いたい。</p>
<p>意見⑥ 環境管理課長</p>	<p>&lt;オキシダントの発令回数の増加について&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・平成22年度はオキシダントの発令回数が増加しているが、県中北部にモニタリングポストを増設したためか。</li> </ul> <p>従来の水島地域を中心とした地域型汚染に加え、近年の大陸型に対応するため、平成20年度から県中北部にモニタリングポストを増設しているが、1局あたりの受け持つ市町村数が多く、発令回数が増える要因にもなっている。</p> <p>なお、昨年度は残暑が厳しく長期間にわたり発令があったが、今年度は大気の不安定な日が多く発令が少なかった。</p>

<p>委員意見⑦</p> <p>環境管理課長</p>	<p>・オキシダントの現況を分かりやすく示すには、発生時期や発生場所ごとに整理し、発生要因の分かるもの分からないものなど、性格の違いを明らかにして比較すべきではないか。</p>
<p>環境管理課長</p>	<p>県北部・中部にモニタリングポストを設置したのが平成20年度からであり、現在までのデータの集積量が十分でなく、従来通りの表現を行っていたが、今後現状を反映した表現方法の改善を図ってまいりたい。</p>
<p>意見⑧</p> <p>環境管理課長</p>	<p>&lt;VOCの規制について&gt;</p> <p>・オキシダント対策として、VOC規制が行われているが、報告資料に記述がないがどうなのか。</p>
<p>環境管理課長</p>	<p>平成18年度からVOCに関する法整備が行われており、トピックとして盛り込むべき事項で善処して参りたい。</p> <p>なお、2次生成物である光化学オキシダントの発生メカニズムは複雑で発生源におけるVOC規制の効果が大気環境に表れているかどうかの評価は難しい。</p>
<p>事務局説明</p>	<p>【議題2】(環境企画課長より別添「資料2」に基づき説明)</p>
<p>—委員意見—</p> <p>委員①</p> <p>環境企画課長</p>	<p>・行政が考えるスパンは5年、10年と長い。実業界の変化のスピードははるかに早い。もっときめ細かく対応できる中身や考え方を盛り込むべきではないか。</p> <p>短いスパンの計画については、別計画を策定したり、適宜見直すことで対応したい。</p>
<p>委員②</p> <p>環境企画課長</p>	<p>・県民参加の見直しというのは良い。問題はいかに県民の協力を得るかで、そのための工夫が必要。特に若い世代の意見を聴いてもらいたい。</p> <p>県民との意見交換会等を通して、広く意見を聞ける場を設けたい。</p>
<p>環境企画課長</p> <p>参加委員全員</p>	<p>・現在の4つの基本目標と2つの推進目標という骨格はそのままに見直しを行うこととしてよいか。</p> <p>構わない。</p> <p style="text-align: right;">以 上</p>